

## □10月29日主日礼拝説教短縮版(隅野瞳牧師)「初めに神は天地を創造された」(創世記1:1～5,24～31)

神は何もないところから御言葉によって世界を造られました。神が命じられると、私たちの心の闇を照らす光がもたらされました。永遠にあった光なる神がこの世界、私の現実に関りを持ってくださった、救いの歴史の始まりです。天からの光を受けてこそ、イエス・キリストが私の救い主であると信じ救われることができます(使徒9:3)。御子は人間となってこの地上を歩み、見えない神の愛を見えるようにお示しくださった光です。御子信じる者は神の形に再び創造され、光として遣わされます。あなたの隣の人を救うために、神はあなたに光を与え、輝かせなさいと言われます。永遠の光を運んでいきましょう。

神は御自分にかたどって人を創造されました。私たちは神、また人と交わりをする者として造られたのです。人間だけが永遠を思い、祈り、神を礼拝します。私たちは愛の交わりの中こそ、生きる者なのです。神はお造りになった世界を御自身に代わって管理するように、人間に託されました。好き勝手に被造物を浪費し破壊するのではなく、それぞれの特性を知ってふさわしく養うことが御心です。

神は造られたすべてのものを見て「極めて良い」と喜ばれました。私たちは自分や世間の評価ではなく、私をお造りになり私を一番よくご存じの神のお言葉を心に刻みましょう。この御言葉を通して、私たちは隣の人またこの世界をも、神の愛の対象として再発見し、希望を持ち続けることができます。目に見えるところがどうであったとしても、神はそのままの私たちを愛しておられます。ですから御子を送ってくださったのです。神が語られるなら、人の目に可能性がなくても必ずそのとおりに成る。神は世を癒し造り変えることができると、私たちは信じます。

神の愛を知った私たちは、何度でもこの愛を受け、語り、具体的に示さねばなりません。御子が人となり、十字架にまで御自身をささげるほどに、あなたは愛されている。あなたが神の愛に立ち帰って自分の価値を知り、愛する喜びを知って生きることを、神は願っておられるのだと。主を心にお迎えするなら、主の光が私たちを照らし、きよめ、愛で満たしてください。そして私たちは主のお姿を映し出しながら、喜んで生きる者とされるのです。(終)